



三春中学校だより

第 28 号

発行日 平成30年 9 月 4 日

発行所 三春町立三春中学校

電 話 0247-62-2181 F A X 0247-62-6978

E-mail miharu-j@fcs.ed.jp

【教育目標】『三春に暮らす生徒一人ひとりに、将来に対して喜びと生きがいのある人生を主体的に創造する力を育み、地域に信頼され、ひいては、国際社会に貢献できる人材を育てる』

【部活動のねらい！ ～本校部活動ではこんな生徒の育成をめざしています。～】

最近のメディアでは、アメリカンフットボール、ボクシング、体操などのスポーツ界の話題が盛んに報道されていますが、本来、正々堂々、人づくり、スポーツマンシップなどからイメージされるスポーツ界とは逆の話題になっている傾向があります。

本校においては、9月26日（水）・27日（木）に支部中体連新人大会を控え、各部活動では、学校教育の一環として、下記のようなねらいのもと、部活動・人づくりに、顧問と子どもたちが一緒になって一生懸命に取り組んでいます。

【三春中学校部活動経営計画 部活動のねらい】

- (1) 生徒一人ひとりの実態に応じ、気力や体力、個性などの伸長を図る。
- (2) 心身の健全な発達を助長し、中学生として望ましい態度を養う。
- (3) 集団の一員としての態度と役割を自覚させ、協調性を養い、友情を深めるとともに、自主的精神と態度を養う。
- (4) 時間と場を有効に使う意識と態度を養い、個に応じ、趣味・特技・教養を身につけさせる。
- (5) これまでの学校体育としての部活動と地域のスポーツ少年団・錬成会などの社会体育との連携・特色等について再考し、三春中学校の現状にふさわしい部活動の編成を実現する。

学校の部活動では、必ずしも、その競技に専門の教員が顧問をするとは限りません。その学校に赴任し、異動した前顧問のあとに入るといことが現実的には多くあります。そのような状況の中、新顧問は、その競技について一生懸命学び、子どもたちと共に、部活動を運営してまいります。

以前、オリンピックメダリストのインタビューのほとんどの、自分の努力よりも、お世話になった方々への感謝の気持ちが述べられていたというお話を掲載いたしました。部員たちの中には、その競技でプロの道をめざす生徒、部活動で学んだことを糧として社会生活をおくる生徒など、部活動に取り組んでいる子どもたちの進路はさまざまですが、学校教育の中でとても大切な活動です。

子どもたちのがんばりを認め励ましていきたいと存じますので、今後とも、上記ねらいの達成にむけた部活動の推進に対し、ご理解・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

【夏休み明けも元気な声が響いています！ ～この日は3人であいさつ運動をしました。～】

季節の変わり目。雨が降ったり台風が接近したり、気温の変化がめまぐるしかったりと、体調を崩しやすい季節です。『命の輝き』のためには、健康な心身がその土台となります。朝の校庭では、4名の顧問のもと、“支部駅伝”にむけ最後の調整に余念がありませんでした。フェンスを伝う朝顔や駐車場にそって植えられた黄色や赤色の花々は、子どもたちの登校を見守っています。生徒昇降口前では、この日も、3名の生徒が、登校してくる一人ひとりに元気なあいさつを投げかけていました。

長い夏休みから学校生活への切り替えには少しだけ努力や時間を要する子もいますが、少しずつ学校生活のいつものリズムが戻りつつあります。「早寝・早起き・朝ご飯」。規則正しい生活を心がけ、夏の疲れを早期にとって、また、一緒に学校生活や各種大会等に取り組んでまいりましょう。



【田村地区中学校英語弁論大会、「まほら」にて開催！～理解すること、表現すること～】

8月29日（水）、三春町の「まほら」において、平成30年度「田村地区中学校英語弁論大会」が開催され、本校より3名の生徒が出場しました。開会のことは本校生徒が担当し、開会式の中で、昨年度創作の部優勝でいただいた優勝カップの返還も行いました。その後、創作の部と暗唱の部に分け、各学校代表の生徒がスピーチしました。

本校女子生徒が全体のトップバッターとして登場し、夏休みの間も一生懸命指導の先生と練習した、流ちょうな英語を披露しました。審査員には、田村・船引・小野の3高校の英語の先生と郡山市教育委員会から2名の先生をお迎えし審査が行われました。

本校代表の3名の生徒は、自分の訴えたいことに応じ、英語の長文も見事に覚え、いずれも見事な弁論を披露しました。3名の代表生徒のみなさん、練習から当日の弁論まで、よくがんばりました。審査後の審査委員長さんからのアドバイスは、①英語弁論は表情・目・口が大切。②単語と単語のつながりを意識して。③聴衆の一人ひとりとのアイコンタクト。④姿勢も大切。演台に寄りかからずに肩の力を抜きリラックスして。という4つでした。

「弁論」とは、自分の思いを整理し、その思いを相手に伝えるようにわかりやすく伝え、自分の思いと伝えられた側がその思いを共有すること。自分が理解していることと、相手に伝え、そして、伝えることは違う活動であり、相手と自分の思いがシンクロすることで、より人の心を動かす、すばらしい弁論になってくるのでしょうか。11月末には、三春町の英語弁論大会も予定されています。国際化社会、グローバル社会に生きる一人として、「英語」に挑戦してみたいはいかがでしょうか。



【『こだから草』をいただきました！ ～環境委員会の2名の女子生徒、校長室来室～】



9月3日（月）は、生徒会常任委員会が開かれました。集団活動を通し生徒の自主・自治力の育成・向上をめざした活動の一環ですが、この日、校長室で仕事をしていると、2名の女子生徒が植木鉢をもって来室しました。一人の女子生徒、「鉢植えをお持ちしました。」校長答えて曰く、「何という名の花ですか。」その女子生徒曰く、「こだから草です。」もう一人の女子生徒が、校長をつくづくみて曰く、「今更ですか。」軽妙な言葉のやりとりを楽しみました。中身はともかく、気の利いた会話がスムーズにできる2名の女子生徒でした。楽しい瞬間でした。校長室の植物に新たなメンバーが加わりました。子宝を授かったつもりで大切に育ててまいります。2名の女子生徒さん、ありがとうございました。

【『ひたむきに、こころ豊かに！ ～ペットボトルキャップ、そして、ぬれた校旗～】

出勤すると、下駄箱の前にペットボトルのキャップが大きな袋に4つ。校庭には突然の台風の雨に濡れた校旗を降ろしてくれている女子生徒1名。三春中学校の生徒の多くが、自分のことはもちろん、他のためを思って活動ができる、温かい気持ちをもった生徒です。ご家庭での教え、学校での指導の成果でしょう。それぞれに感謝します。自慢の生徒たちです。

